



—— 読み聞かれる機会も頂きました
—— 代表は電気土木工事の分野もあらかじめ学ばれていたのですか。

そうですね。以前からこの分野に挑戦したいという思いがあつたので、数年前に重機の免許を取得し、勉強を重ねてきました。
—— そうやって先進的な事柄に早くから取り組んでいるからこそ、いざ実際に工事が始まるという時に率先して動き、実績を積み重ねてこられたのでしょうか。



Guest Comment

「新しい分野にも果敢に挑戦し、技術を身につけて前進してきた謝花代表。『経験がなければ学べばいい』という姿勢で突き進む姿勢はまさに『根性の塊』という印象を受けました。そうした信念があるからこそ、業界で高い信頼を得ておられるのだろうと納得させられましたよ！」 布川 敏和：談

COLUMN

支え合う家族への尊敬の念

▼強い覚悟を持って独立を果たした謝花代表。当初、家族からは独立に反対されていたが、今では互いを尊重し合い、協力しながら支え合う関係を築いている。現在、代表の兄は民間工事を専門に手掛けており、それぞれ異なる分野で活躍。必要に応じて仕事を融通し合い、お互いの強みを活かして補い合うこともあるという。

▼また、代表の父親は80歳を超えた今も現役で、知人のもとで電気工事に携わっている。「危険なので、家族からすればそろそろ引退してほしいという思いもあるのですが、父はやはりこの仕事が好きなようです」と、代表は微笑みながら語る。その言葉には、父親への尊敬と、家族としての温かい思いが滲んでいた。

——ゼロの状態からスタートされたのでしようか。

はい。まずは工具を揃えるところから始め、営業も事務もすべて自分でこなしました。そして、ありがたいことに良いご縁に恵まれ、お付き合いを大切にしながら仕事に努める中で、仕事が広がっていったんだす。ただ、独立した最初の1年は順調でしたが、その翌年にコロナ禍で状況が一変しました。

——コロナ禍では世界中で色々な活動がストップして、本当に大きな危機でしたよね。そんな中で、どのような取り組みをされたのでしょうか。

が妊娠していた時期で、大変な状況の中、支えてくれた妻には本当に感謝しています。「親兄弟ともぶつかってまで独立したからには、中途半端なことはできない」と強い覚悟で挑みました。

――まずは、謝花代表の歩みから伺います。
ここ、沖縄県うるま市の出身です。小学校時代は柔道・中学・高校では野球に打ち込み、スポーツに親しんだ少年時代を過ごしました。

――社会の第一歩はどのようなお仕事に就かれたのでしょうか?

「人の役に立つ仕事をしたい」と考えて、最初に選んだのが介護士の仕事でした。ただ、母が亡くなつたことで家族を支えたいという思いが強まり、電気工事業を営んでいた父の手伝いを始めることに。幼いころから父の工具で遊ぶほど電気工事が身近にありましたし、私の兄弟6人のうち、3人が電気工事に携わっています。いわば、電気工事の一家に生まれ育つたわけです。

――まさに血筋ですね。その後、独立を果たされた?

ええ。父や兄からは反対されましたが、自分の手で事業を手掛けたいという思いが強く、兄弟とも話し合った末に覚悟を決めました。

A portrait of a middle-aged man with dark hair and a well-groomed beard and mustache. He is smiling warmly at the camera. He is wearing a tan-colored, zip-up jacket over a dark shirt. On the left chest of the jacket, there is blue embroidery that appears to read "吉澤、大富酒造". The background is slightly blurred, showing what might be shelves or equipment in a workshop or office setting.

沖縄県うるま市を拠点に活躍する『花丸電気興業』。電気工事や計装工事、電気土木工事を専門とし、確かな仕事ぶりと人を大事にする姿勢で厚い信頼を築いている電気工事会社だ。本日はタレントの布川敏和氏が同社を訪問。大きな危機も乗り越えて事業を成長させてきた謝花代表にお話を伺った。

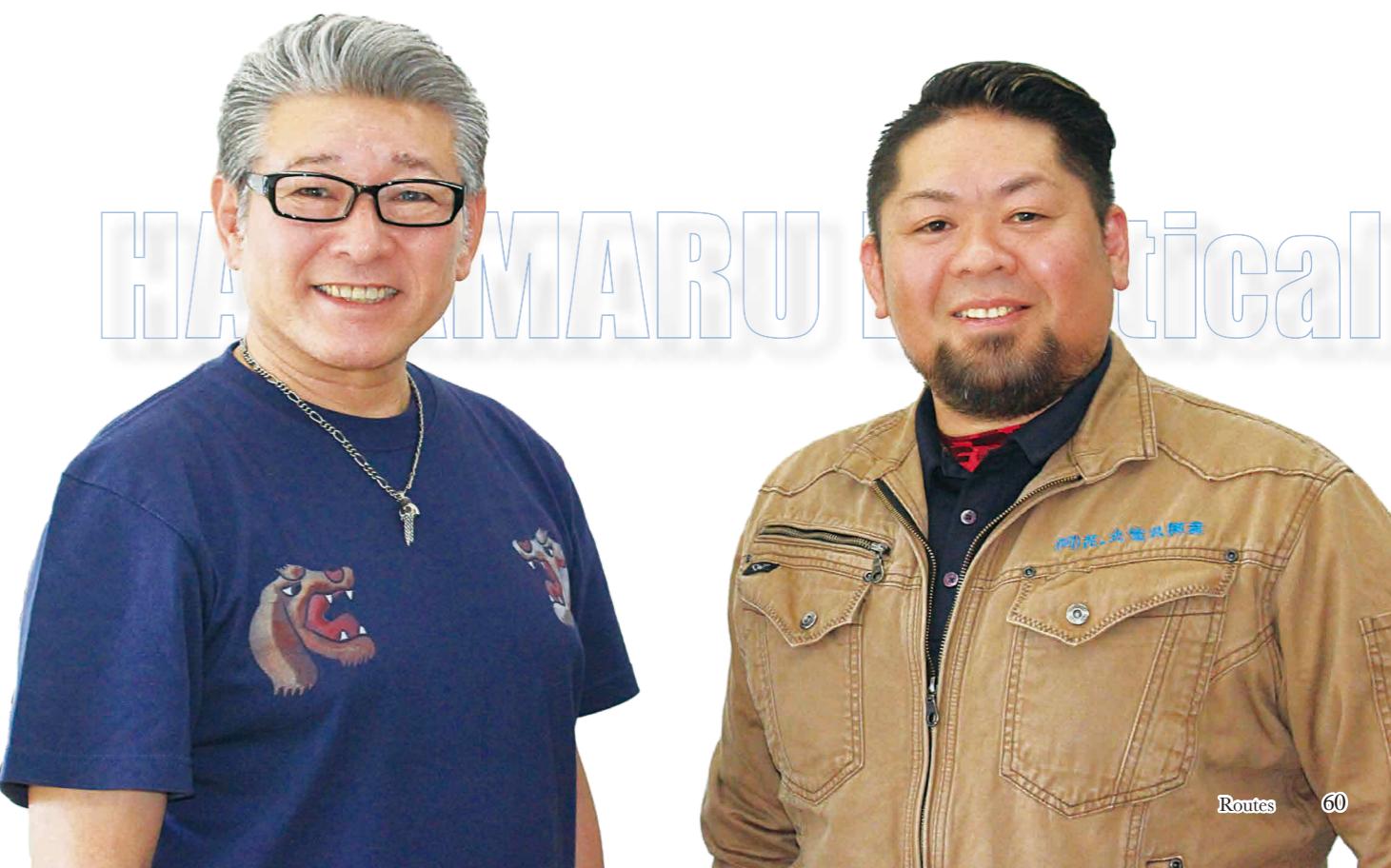
覚悟を持って努力を重ね、事業の成長を実現 電気工事業界で厚い信頼を築く経営者

S P E C I A L I N T E R V I E W

ゲスト インタビュアー

布川 敏和 × 謝花 良仁

(同) 花丸電氣興業
代表



「これまでの苦労は無駄ではなかつた。
今までしてきたこと全てが繋がつて
事業が成長していったのです」



(同) 花丸電気興業

代表 謝花 良仁

謝花代表は、揺るぎない信念を持ち、事業を推進してきた人物だ。

KEY WORD

結実

— ketsujitsu —

コロナ禍では事業の存続が危ぶまれる危機に直面したが、

勤めに戻ることは一切考えず、むしろ事務所を構え、不退転の覚悟で前進。

人との繋がりを大切にしながら確かな信頼関係を築き、

計装工事や電気土木工事の技術を身につけ、業績の回復へと繋げていった。

かつて独立に反対していた家族とも、今では認め合う良好な関係を築いている。

「今までてきたこと全てが繋がり、事業の成長へと結実したと感じます」と代表。

これからも代表は歩みを止めることなく、一歩ずつ確実に未来へと進んでいくだろう。

●対談記事は 60・61 頁に掲載